

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(北星高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	安心・安全な環境で、「自分ならではの学び」を支援する学校	
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)【グラデュエーション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夢や希望の実現に向けて、主体的に学び、チャレンジすることができる生徒 ・ お互いの人権を尊重し、多様な価値観を認め合える生徒 ・ 社会規範を身に付け、社会的・職業的に自立できる生徒 ・ 自身の可能性を最大限に発揮し、共生社会の発展に寄与できる生徒
	ありたい教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北星高校教職員としての自覚を持ち、教職員間での情報共有を図り、チームとして協働できる教職員 ・ 寄り添いや傾聴の姿勢を重視し、個々の生徒の成長を支援することができる教職員 ・ 教職員としての使命感や責任感をもち、人権感覚やコンプライアンス意識の向上を図ることができる教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要望・期待	<p><生徒> 安心して学べる環境、学び直しなど個に応じた学習支援、心身の課題に応じた生活支援、自己実現に向けた活動支援</p> <p><保護者> 社会に出て自立できる力を身につけられるような支援</p> <p><地域> 生徒の公共心とマナーの育成による地域の安全安心、地域活性化への協力・貢献</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭> 子どもの社会的自立ときめ細やかな支援、子どもの学習状況や本校の教育活動についての情報提供、安心して通わせられる学校環境</p> <p><中学校・高等学校> 多様な課題を抱えた生徒の学びのための連携、学びの場の提供</p> <p><地域> 地域行事や防災での学校施設の利用と生徒・教職員の協力</p> <p><関係機関> 生徒支援のための連携と情報共有</p>	<p><家庭> 本校の教育活動への理解と協力</p> <p><中学校・高等学校> 生徒の情報共有</p> <p><地域> 本校の教育活動に対する理解と支援</p> <p><関係機関> 生徒支援のための連携と情報共有、専門的な知識の提供</p>
(3)前年度の学校関係者評価など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との連携をさらに深め、防災教育の取組をより実践的な避難訓練となるようにしていけるとよい。 ・ 通級指導の対象となる生徒の増加に伴い、支援体制を整備し、継続的な支援をしていくことが重要である。 ・ 進路指導では、キャリアデザインセミナーの効果を長期的に把握したり、職場見学の充実を図ったりすることで、就労のミスマッチの軽減を目指していくとよい。 ・ 個別の教育支援計画やコミュニケーション授業における実践を活用していくことで、生徒の安心・安全な環境づくりを推進していけるとよい。 ・ 教員の働きやすさの向上、地域・企業との連携強化、SNSの適切な活用についても継続的に取り組んでいく必要がある。 	

(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着が必要な生徒、特別な支援や配慮を必要とする生徒等が多数在籍しており、多様なニーズに対応できる教育課程の編成が課題である。 ユニバーサルデザインを意識した授業改善の継続や、生徒の興味・関心、意欲を引き出す授業づくり、ICT等を効果的に活用した個別最適な学びや協働的な学びの推進が必要である。 生徒のコミュニケーション力や自己肯定感を育むため、防災教育を通して、自助・共助についてより理解することで、防災意識を高め、地域との連携を深めていく必要がある。 生徒の心身の発達課題等について、教職員が多様な背景なども十分に理解した上で、専門家や関係諸機関と連携して、生徒一人ひとりに応じた指導・支援を進めていく必要がある。 働きながら学ぶ生徒が減少する中、社会的・職業的な自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成する必要がある。 集団生活の中で生徒が自らを律しつつ、他人と協調したり、他人を思いやったりする心を育てる必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 「北星高校職員として働くこと」に対する教職員の満足度は高く、チームワークとコミュニケーションを大切にしている雰囲気がある。 業務分担の偏りと多忙感を解消し、教職員一人ひとりの能力を発揮することができる環境を整備する必要がある。 教職員・保護者・地域・関係諸機関との連携を強化し、「チーム北星」による生徒支援の体制づくりを進める必要がある。 生徒に社会参画の意識を育むため、学校、保護者、地域が連携した教育活動の機会を創出する必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒の教育的ニーズを踏まえ、生徒の自己肯定感を高めるとともに、生徒が「学ぶ喜び・楽しさ」を見だし、夢や希望の実現に向けて主体的に学ぶことができるよう教育活動を工夫する。 生徒が学校における学習と自分の将来との関連に気付き、主体的に進路を選択できるよう支援する。また、社会的・職業的な自立に向けて必要となる能力や態度を育成する。 生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、教育活動全体を通じて人権尊重の意識を高め、いじめのない安心・安全な学校づくりを推進する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 定時制・通信制が一体となった持続可能な学校運営とするため、情報共有のしくみと協力関係を構築する。 生徒の成長と自立を支援するため、教職員・保護者・地域・関係機関等との連携を強化する。 教職に必要な素養や教育課題への対応力等の向上を図り、効果的な教育活動を継続的に行うことができるよう働き方の改善を推進する。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> 定時制・通信制課程の特色を理解し、主体的に学ぶ意欲を持った生徒。 多様な価値観を認め合い、人との関わりを大切にし、共に高め合える生徒。 将来に対して目的意識を持ち、自分ならではの学びができる生徒。
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
主体的な学びの推進	<p>【教務】 <定通共通> ○ 多様な教育的ニーズをもった生徒が、主体的に学びに向き合えるよう、教育課程の見直しと学習環境の整備を実施する。 ○ 個別最適な学びや協働的な学びを取り入れた授業・スクーリング・添削指導を実施する。 ○ 生徒による授業・スクーリング評価を実施する。</p> <p>【活動指標】 ・ 生徒による授業評価を年2回(5月、12月)実施</p> <p>【成果指標】 ・ 授業・スクーリングの評価において、「内容に興味・関心が持てた」「学力(知識や技能)の向上や自分の進歩を実感できた」の項目について4.5ポイント以上</p>	<p>【教務】 ・次年度に向けて、生徒が学びやすい時間割、教育課程になるよう改善した。 ・5月、12月に、授業・スクーリング評価アンケートを実施した。結果は、定時制が4.49→4.52、通信制が4.37→4.53と上昇した。 ・一方、成果指標の2項目では、2回目(定)4.49・4.47及び4.48・4.51(通)という結果になり、指標の達成に至らなかった。</p>	◎
安心安全な学校づくり	<p>【人権学習】 <定通共通> ・ あらゆる教育活動において人権教育を推進する。 ・ 講演会、総合的な探究の時間、LHR、学校行事等、さまざまな教育活動を通じて仲間づくりを推進する。 ・ 個別の人権問題や差別の現状について学ぶことで、人権の意義と重要性を理解し、自他の人権を尊重できる人権感覚を育む。</p> <p><定時制> 【活動指標】 ・ 総合的な探究の時間で人権学習を実施する。(年2回)</p> <p>【成果指標】 ・ 「夢ノート」において「興味をもった内容や新たな気づきがあった」生徒の割合70%以上</p> <p><通信制> 【活動指標】 ・ LHRや総合的な探究の時間等で人権に関する学習を実施する。(複数回)</p> <p>【成果指標】 ・ 対面での人権LHRへの参加人数、動画配信の実施</p>	<p>【人権学習】 ・ 教員向けの人権感覚ブラッシュアップ研修を行い、人権教育に係る知識を深めた。</p> <p><定時制> ・ 1回目は5/29に部落問題に関する学習、2回目は11/20に人権講演会を開催した。振り返りでは、「大変興味を持って取り組めた」「学べる部分があった」等と回答した生徒は、1回目98%、2回目99%で、多くの生徒が部落問題を自分事としてとらえて学ぶことができた。</p> <p><通信制> ・ 11/13、11/16に人権講演会を開催した。参加人数は両日合わせて57名だった。また、講演会後には、部落問題に関する法務省の動画をGoogle classroomに配信した。</p>	◎
	<p>【生徒指導】 <定通共通> ○ 自己肯定感や他者受容感を育み、いじめのない、「安心」して学校生活を送ることができるような「安全」な学校づくりを推進する。また、生徒一人ひとりが「命を守り、命を大切にする」意識を高められるよう指導する。</p> <p><定時制> ・ 誰もが大切な存在として認められ、一人ひとりが安心できる学校であるよう、積極的に生徒とコミュニケーションを図る。また、安全に学校生活を送ることができるよう、問題行動やトラブルの未然防止、早期対応に努める等、いじめ防止の取組を推進する。</p>	<p>【生徒指導】 <定時制> ・ 年度初めに「仲間づくり講演会」を実施し、生徒の自己肯定感や他者を大切にする意識を育むことができた。また、8月と12月に「いじめ支援アドバイザー」による、いじめをテーマとした現職教育を実施し、いじめに関する知識や具体的な対応等について学ぶことができた。 ・ 学校生活アンケートの内容をチューターや部主任等と共有し、いじめや生徒の抱</p>	◎

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめに特化した学習・研修を実施する。 ・ 学校生活アンケートを実施する(年3回)。 ・ 年間を通じた継続的な校内外の巡回を行う。 ・ 始業式、終業式、長期休暇前等の集会時において、命の大切さについて講話する。 ・ 総合的な探究の時間において、5 月には「交通安全」教育、11 月には「情報モラル教育」を実施する。 ・ 授業規律を徹底する。 <p><通信制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒がいじめを許さない心や相手を思いやる心を身につけることができ、また、安心・安全に学校生活を送ることができるよう、学校環境を整える。 ・ 交通事故の加害者・被害者になることのないよう、交通安全教育を実施する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活アンケートを実施する(年3回)。 ・ 職員による、年間を通じた継続的な巡回を行う。 ・ 特別活動の時間や Google Classroom等を利用し、仲間づくり、いじめ防止、交通安全に関する学習を行う。 	<p>える悩みの早期発見につなげることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回時のポイントやトラブルの際の対応方法等を教員間で共有した。また、不定期ではあるが、校外の巡回も行った。 ・「交通安全教室」では、事故に遭わない、事故を起こさないためのルールやマナーについて学習できた。また、「情報モラル教室」では、「闇バイト」等の SNS 上における様々なトラブルについて学ぶことができた。 ・式典や集会での講話の回数を増やし、自他共に命を大切にすることを伝えた。 <p><通信制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・始業式時に、「いじめを許さない安心・安全な環境で学べる学校」をつくること、「自転車の交通ルール改正」についての講話を行った。 ・県の啓発チラシを Google classroom や校内の掲示板等で配信した。 ・喫煙防止について注意喚起するとともに、巡回も適宜増やす等の取組を行った。 ・「学校生活アンケート」や「いじめ相談アンケート」を活用し、即座に対応できる体制を整えた。 	
<p>社会的自立を促す支援</p>	<p>【進路指導】</p> <p><定通共通支援の促進></p> <p>○ 定時制、通信制合同での進路支援を促進したり、定時制進路行事への通信制生徒の参加を促したりする。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定通合同で就職選考委員会後の入社試験対策を実施する。 ・ 通信制卒年次生を中心に、定時制キャリアデザインセミナー②への参加を募る。 <p><定時制></p> <p>○ キャリアデザインセミナー及び進路相談の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進路に関して興味関心が高まり、「参加出席してよかった」と思えるキャリアデザインセミナーを実施する。 ・ 進路相談を通して、一人ひとりの進路プランを考え、サポートする。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアデザインセミナーを総合的な探究の時間において年4回実施する。 	<p>【進路指導】</p> <p><定通共通支援の促進></p> <p>定時制・通信制の合同の進路行事(キャリアデザインセミナー②)には、通信制生徒の参加者がなかったが、生徒の進路支援においては、分け隔てなくサポートできた。</p> <p><定時制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザインセミナーを4回実施した。その中で、卒業生が自身の進路体験談を講演する回を設定した。生徒は進路について意識を高めることができた。 ・キャリアデザインセミナーの満足度は、第1回 99%、第2回99%、第3回 95%、第4回98%であった。生徒は自 	<p>◎</p>

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシート(「夢ノート」)のアンケートにおいて、生徒の満足度80%以上 <p><通信制></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 進路ガイダンスを中心としたキャリア教育の充実に努める。 ○ ソーシャルスキルを意識した授業づくりとLHRの運営を推進する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進路ガイダンスを3回(5時間)実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートのアンケートにおいて、生徒の満足度80%以上 	<p>身の進路について主体的に考えることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度もより一層充実したセミナーとなるよう、企画・運営していきたい。 <p><通信制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育の充実に向けて、進路希望にあわせた進路ガイダンスを3講座展開で3回(5時間)実施し、出席者も増加した。振り返りの満足度は、「大変役立つ」「役立つ」の項目で98%という結果だった。 ・ 履歴書・面接・礼状指導等の就職試験対策をチューターと進路指導部の合同で実施し、進路支援を充実させた。 	
	<p>【保健】</p> <p><定通共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個に応じた指導・支援の充実に努める。 ・ 保健室から情報発信し、定時制各部・通信制・各分掌等と連携を図り、生徒一人ひとりを尊重し、個に応じた指導・支援を実践する。<定通共通> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや教育相談員との情報共有を密にし、連携して生徒の指導・支援を行う。(教育相談)<定通共通> ・ 対象生徒の実態を把握し、チューター・生徒・保護者との面談を通して、個別の教育支援計画を作成・活用する。(特別支援)<定通共通> ・ 集団に入ることが困難な生徒に対し、通常教室での学習に戻る力を育むために、教員とのマンツーマンでの学習支援を実施する。(個別支援) 	<p>【保健】</p> <p>(教育相談)</p> <p>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの情報共有を面談後に実施した。また、チューターはその助言を参考に、生徒や保護者を支援したり、必要に応じて医療機関等に繋いだりした。</p> <p>(特別支援)</p> <p>必要に応じて、チューター・生徒・保護者が、発達支援員と面談した。また、7月中に個別の教育支援計画を作成した。</p> <p>(個別支援)</p> <p>通信制システムを利用した個別の支援を実施した。</p> <p>前期10名・後期6名</p>	◎
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を実感することができるよう、授業・スクーリングの改善に努める。 ・ いじめ防止やSNSリテラシーへの意識を高めるとともに、生徒が安心して学べる取組を進める。 ・ 総合的な探究の時間や学校行事をとおして、生徒が自身の可能性を伸ばし、よりよい自己実現を図れるよう進路支援等の取組を充実させる。 ・ 多様な生活背景のある生徒への支援において、SCやSSWとの連携や、個別教育支援計画に基づいた支援を充実させる。また、専門機関や関係諸機関との連携を強化していく。 ・ 特別な支援が必要な生徒への一つの手立てとして、「コミュニケーション」や通級指導等の指導内容を充実させる。また、そのノウハウを他の教育活動にも活かしていく。 ・ 防災教育を通じて自助・共助についての理解を深めるとともに、地域の一員として行動できる力の育成をとおして生徒の自己肯定感を涵養する。また、地域と連携した防災の取組を充実させていく。 			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>「チーム北星」の協力体制の構築</p>	<p><全般> ○ 校務に関する情報共有を通して分掌・部・課程間の連携協力関係を強化する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種委員会等の定期的な開催及び構成メンバーの見直し ・ 定通併修生徒の学習状況についての情報共有 ・ Teams を活用した効果的な情報共有 <p><総務> ○ 保護者・地域等への情報提供の充実を図るとともに地域連携を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページを随時更新し、個々の閲覧者に対してわかりやすく、的確に最新の情報を発信する。 ・ 防災教育や合同避難訓練を通して地域との連携を図り、防災意識の啓発に寄与する。 <p><PT(学校マネジメントプロジェクト会議)></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職場の環境改善や職員研修の充実を図る。 ・ 教職員アンケートを実施し、その意見をもとに改善を図る。 ・ 職員研修として、現職教育を年4回実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート項目において、「教職員間にお互いに協力・連携する雰囲気がある」の満足度が75%以上(昨年度末73%) ・ 「仕事の配分(業務の多寡)は公平で適切である」の満足度が40%以上(昨年度末35%) 	<p><全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時制、通信制教務部にそれぞれ併修担当者を置き、生徒の状況に応じた学び方の一つとして、併修の指導をしていけるようにする。 ・ 「ワーキング」「チーム会議」等を開催し、対応策等について協議している。 <p><総務></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報推進員が、管理職をはじめとする関係各所と連携を図り、必要な情報を迅速に発信できた。 ・ 毎年の合同避難訓練が定着しつつあり、地域との必要かつ継続的な連携が構築されている。 <p><PT></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員アンケートの実施後、結果を全職員に共有した ・ 現職教育は、会議・行事等の日程の関係で、担当・分掌による年3回の実施となった。 ・ 「教職員間にお互いに協力・連携する雰囲気がある」の満足度は72%であった ・ 「仕事の配分(業務の多寡)は公平で適切である」の満足度が50%と向上した。 ・ 一方、詳しく見ると、「満足している」の回答は0であり、「全く満足していない」の回答も見られることから更なる改善が必要である。 	<p>◎</p>

<p>資質向上の取り組み</p>	<p><全般> ○ 教職員一人ひとりが教育公務員としての自覚を持ち、県民の期待と信頼に応えていくために、人権感覚やコンプライアンス意識の向上に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体でのコンプライアンス研修を年2回実施する。 ・ グループ単位によるコンプライアンスミーティングを年2回実施する。 <p><教務> ○ 授業・スクーリング公開及び、職員による授業・スクーリング見学週間を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回(5月、12月)実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒による授業・スクーリング評価ポイント平均4.5ポイント以上 ・ 生徒による授業・スクーリング評価ポイントが、1回目比べて2回目において上昇 <p>○ 履修指導・受講指導に関する職員研修を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年1回以上実施 	<p><全般> ・ 全体でのコンプライアンス研修を2回実施した。また、グループ単位では、2回以上のコンプライアンスミーティングを実施し、教職員の意識の向上を図った。</p> <p><教務> ・ 授業・スクーリング公開を2回実施した。また、授業・スクーリング見学週間も2回実施した。 ・ 生徒による授業・スクーリング評価結果は、定時制1回目4.49→2回目4.52、通信制1回目4.37→4.53となり指標を達成できた。 ・ 授業・スクーリング公開の来校者数は、延べ183名だった。 ・ 履修指導・受講指導の前に個に応じた指導をミスなく行えるよう説明会、研修を実施した。</p>	<p>◎</p>
<p>職場環境改善</p>	<p><全般> ○ 働きやすい職場環境の向上に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営の効率化を図り、教職員が働きやすい環境づくりを推進するため、総勤務時間削減の取組として、以下の4項目に取り組む。 <ol style="list-style-type: none"> ① 定時退校日を月2日以上設定し、達成率90%以上 ② 部活動休養日を週2日以上設定し、達成率100% ③ 1時間以内に終了する会議 80%以上 ④ 学校閉校日を年5日以上設定(8月・12月) <p>【成果指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 時間外労働時間を平均月20時間以内 ② 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ③ 年360時間を超える時間外労働者の人数 0人 ④ 休暇取得が年間15日の人数 30人以上 <p><総務> ○ 生徒清掃時に行う職員のクリーンタイムを活用して、休憩室等、職員が使用する場所の清掃だけでなく、日頃から校内における職員の美化意識の向上を図る。</p>	<p><全般> 【活動結果】 12月末現在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退校日達成率92% ・ 部活動休養日達成率 100% ・ スマート会議達成率100% ・ 学校閉校日 年間5日設定 <p>【成果】 1月末現在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平均時間外労働時間 定時制 6.9時間 通信制 5.7時間 ・ 月45時間超、年360時間超 月45時間超 延べ7人 年360時間超 1人 ・ 休暇取得日数を年間15日 13人 <p><総務> ・ 職員の美化意識向上について、クリーンタイムだけでなく、日頃からの意識向上に努める必要がある。</p>	<p>◎</p>
<p>改善課題</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や地域・関係機関との連携を更に深め、生徒の支援体制を充実させていく必要がある。 ・ 個々の教職員が能力を発揮し働き甲斐を感じられるよう、組織運営を進めていく必要がある。 ・ 保護者・地域等へ情報を提供していくために、ホームページの更新や「すぐーる」の配信について効果的な活用を検討していく必要がある。 ・ 業務の効率化や平準化、労働時間の削減、休暇取得の促進等の取組を継続していく必要がある。 			

6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路支援では、進路未決定のまま卒業する生徒や進路選択のミスマッチの軽減をめざし、外部人材の積極的な活用や職場見学の推進を更に進めていく必要がある。 ・地域と連携した防災教育の取組を引き続き進めていけるとよい。また、人権学習の視点もふまえて取り組んでいく必要がある。 ・様々な教育活動をとおして生徒の意見や願いを受け止めたうえで、生徒や保護者に対して様々な支援をしていく必要がある。 ・様々な課題に組織的に対応していくために、引き続きワーキングやチーム会議等で協議して方向性を決めることが大切である。 ・通級指導やコミュニケーション授業のノウハウを他の教育活動にも活かしていくことで、生徒の安心・安全な環境づくりを推進していく必要がある。
----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>【授業改善の推進】 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、協働的な学習の視点も取り入れながら授業・スクーリングの改善に努める。</p> <p>【安心安全な学校づくり】 いじめ防止や SNS リテラシーへの意識を高めていけるよう、効果的・実践的な指導を進める。</p> <p>【進路支援の充実】 総合的な探究の時間や学校行事の充実、職場見学や外部人材の積極的な活用を推進する。</p> <p>【特別支援教育の推進】 通級指導で培ってきた特別支援教育に係るノウハウを他の教育活動にも取り入れていく。</p> <p>【防災教育の推進】 地域と連携した防災の取組を充実させ、生徒の行動力の育成や、自己肯定感の涵養を図っていく。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>【生徒支援体制の強化】 保護者・地域・関係機関との連携を深め、生徒や保護者への支援体制を充実させる。</p> <p>【職員の能力発揮】 個々の能力を最大限に活かし、働きやすい環境づくりを進める。</p> <p>【効果的な情報発信・共有】 ホームページの迅速な更新や ICT の活用により、情報共有の円滑化や業務効率化を推進する。</p> <p>【業務の平準化と働き方改革】 業務の平準化、労働時間削減、休暇取得の促進に継続的に取り組む。</p>